

心遣いのおくりもの

副校長 榎本 勇司

私が小机小学校に着任してはや3か月。いつも感心させられるのは、子どもたちの人懐こさと素直さ、そして、礼儀正しさです。こちらから話しかけなくても、進んで挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたりする様子に、元気もらっています。

先日は、6年生が箱根・小田原修学旅行に行ってきました。子どもたちは大きく体調を崩すことなく、二日間の行程を無事に終え、帰ってくることができました。感想を一部紹介します。

修学旅行で学んだことは、二つあります。一つは、「集団行動におけるマナー」です。普段、百人以上で活動するので、他のお客様に迷惑がかからないように気を付けました。今後も、校外での活動の時に意識したいと思っています。もう一つは、「コミュニケーションの大切さ」です。色々な施設の方とあいさつやお話をして、関わることができました。たくさんの学びを得て、最高の思い出をつくることができました。

6年1組 児童

小田原城や寄せ木細工など、小田原の歴史について初めて知ることが多くありました。また、芦ノ湖で乗った水陸両用の「忍者バス」が、陸上と水上では操縦の仕方が違うと知り、とても驚きました。

修学旅行を通して、同じ班になった人、同じ部屋になった人、バスの座席が近くになった人と、たくさん楽しめて、めあてが達成できました。

6年2組 児童

さて今回、私は引率者ではなかったのですが、6年生の留守中に、学校ではこんなことがありました。

まず、6年生が帰ってきたときに出迎えるため、5年生が「おかえり6年生」と学校の入り口に飾り付けをしてくれたこと。そして、翌日登校してきたときに6年生の各教室にも5年生一人ひとりのメッセージが貼られていたこと。どちらも学校へ帰ってきた6年生にとって、うれしいサプライズでした。

さらに、実は、帰ってきた6年生が気持ちよく教室で過ごせるようにと、教室や廊下の掃除もしてくれていました。それは、6年生には「気付かれないでよいサプライズ」として話し合ってたもので、5年生の優しい心遣いに感銘を受けました。

その翌日には、今度は6年生から5年生へ修学旅行の感想や感謝を伝えるメッセージが届けられ、心のもったお返しがなされる、温かな交流がありました。

また、1年生も、たてわり活動の中で、事前に6年生から手作りのプレゼントをもらっていたので、修学旅行に行っている間にお返しメダルを作り、6年生の所へ届けに行きました。

小机小学校の子どもたちが、日々の学校生活の中で6年生の姿を見て、尊敬の念を抱いたり、慕ったりしている、また、上級生が下級生を大事にしていることで生まれたつながりの強さがとてもよく伝わってくる、一連の「おくりもの」のやりとりでした。

今年の、6年生の学年目標は「HERO」です。これまでの3か月で、6年生は「なりたいヒーローの姿」を明確にして、下級生にその姿を実践して示してくれています。もちろん、各学年もなりたい姿を考え、それぞれの学年目標や学級目標を立て、目標に向かって生活し、成長しています。

これから6年生がどんなヒーローになっていくのか、また、そのヒーローたちの姿を見て他の学年の子どもたちがどんな成長をして、どんな小机小学校になっていくのだろうか、楽しみでなりません。